

スタート・ライン(最低要件)とリーダーとしての実践 3.0 -

レース・トゥ・ゼロキャンペーンに参加するために必要な最低要件

- 新規の参加者については、2022年6月15日より適用;
- 既存のパートナーとそのメンバーについては2023年6月15日より適用。

レース・トゥ・ゼロは、国連が支持するグローバルキャンペーンで、企業、都市、地域、金融、教育、医療機関などの非国家主体が、パリ協定の目標を遅れずに達成するために、この10年間で世界の排出量を半減し、より健康で公正な炭素ゼロの世界を実現するべく、徹底的に迅速な行動を起こすことを呼びかけています。すべてのメンバーは、同じ包括的な目標に向かってレースすることを約束しています。この包括的な目標とは、透明性の高い行動計画を持ち、堅牢な短期・長期の目標を持ち、進捗を毎年報告する形で、全スコープにおける排出量を科学に基づいて迅速かつ公平に削減することです。国連気候変動枠組条約（UNFCCC）加盟国からの委任を受けた、ハイレベル気候行動チャンピオンであるナイジェル・トッピング（COP26）とマフムード・モヒールディン博士（COP27）が主導するレース・トゥ・ゼロは、脱炭素化のための急進的な協働に向けて、世界経済全体の主体を動員し、各国政府がより速くより先へ進むための自信を与えるものである。

2030年までに世界の排出量を半減するための意味のある進展を加速させ、キャンペーンの十全性を担保するために、レース・トゥ・ゼロは、堅牢なネットゼロの約束(コミットメント)についての最低基準を設定すると同時に、メンバーが努力すべき果敢なリーダーシップの実践方法を示しています。独立した専門家による審査グループが、すべてのレース・トゥ・ゼロパートナーをこれらの基準に照らして審査し、パートナーはそのメンバーが基準を満たしていることを担保する責任を負います。レース・トゥ・ゼロでは、これらの基準を継続的に満たさないメンバーはレースから確実に除外されるよう、説明責任のメカニズムを並行して開発しています。

レース・トゥ・ゼロの要件は、2つのカテゴリーに分けられます。

- ‘**スタートライン(Starting line)**’ 全メンバーが必ず満たすべき最低限の要求事項を示しており、キャンペーンに参加し続けたい場合はこれを下回ってはいけない要件です。
- ‘**リーダーとしての実践(Leadership practices)**’ ネットゼロの世界を実現するために、先進的な主体はどのように道を切り開くことができるかを示すものです。

これらの要件は、以下の3種の補助的文書によって支えられています:

- ‘**解釈ガイド(Interpretation guide)**’, 昨年初めて作成・公開されたもので、EPRG(専門家審査グループ)のメンバーとパートナーに向けて、パートナーからの応募をどのように評価するかを示し、またメンバーもどのように要件を実践するかを学ぶことができるものです。
- ‘**用語集(Lexicon)**’ ネットゼロの世界における重要な用語をリストにし、用語の意味の収束を図るとともに重要な用語の使用方法を具体的に示すことを目的としています。

	スタートライン Starting line	リーダーとしての実践 Leadership practices
<p>誓約 Pledge</p>	<p>温室効果ガス（ネット）ゼロをできるだけ早く、また遅くとも 2050 年までに達成することを組織のトップレベルで誓約する。その際には、温暖化を 1.5℃に抑え、オーバーシュート(一旦増加して後で減らすこと)を起こさない、あるいは限定的に抑えるために必要な地球規模の努力に関する科学的コンセンサスに沿うこと。また、この実現には、地球規模での公正な移行の一環として、排出削減対策をしていないすべての化石燃料を段階的に削減し、廃止する必要があることを認識しなくてはならない。</p> <p>今後 10 年で達成すべき中間目標を設定すること。これは、2030 年までに全世界の CO2 排出量を 50%削減するということについての公平な分担を反映したもの以上とすべきである。</p> <p>目標は全ての温室効果ガス排出をカバーすべきである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 企業や他の組織については、スコープ 1,2,3 を含める 2. 都市や地域については領土排出量を含める 3. 金融機関については全てのポートフォリオ/投融资/促進(facilitated)/保険/排出量を含める 4. 土地利用関連排出を含める 	<p>総量としてのゼロ、またはネット（差し引き）マイナス排出を目標とする 排出量を完全にゼロにし、残余排出をなくすか、あるいはさらに進んで、あなたの活動が生み出す以上の温室効果ガスを除去することを約束してください。詳しくは用語集(Lexicon)をご覧ください。</p> <p>バウンダリの拡大 (全主体について)累積の排出量が大きい場合は特に、目標の対象を拡大し、累積排出をも対象としてください。加えて、あるいはまたは(都市・州・地域について)消費ベースの排出量をも対象としてください。より詳細は用語集(Lexicon)を参照ください。</p> <p>排出削減と除去について、2つの対となる目標を設定する 排出削減目標に加えて、毎年の未削減の排出を、高品質の炭素クレジットへの投資を通じて補償(compensate)し、未削減の排出量を中和するという約束の十全性を示す中和のマイルストーンを開示し、最終的にどのように 2050 年までにすべての残余排出量を高品質の永続的な除去によって中和する計画かを示してください。</p> <p>メタンと他の温室効果ガスについて短期の具体的削減目標を設定する IPCC の第 6 次評価報告書に沿って、2030 年までにメタンの排出量を少なくとも 34%削減することを誓約し、その他の地球温暖化係数の高い GHG 排出量を削減する短期的な目標を誓約してください。</p> <p>自然を保護する 森林破壊を止め、生物多様性を保護し、活動を気候変動にレジリエントな開発に沿ったものとするを誓約してください。資金について、森林破壊や他の自然生態系の転換を止め、生物多様性を尊重するなど、気候変動にレジリエントな開発に沿ったものとするを誓約してください。</p> <p>2030 年ブレイクスルーに貢献する 2030 年ブレイクスルーに沿ったセクター別目標、またはより野心的なセクター別目標を設定してください。金融機関については、排出削減を促進するとともに、単に高排出部門から低排出部門への投資シフトにならないようなセクター別目標を用いてください。</p>
<p>計画 Plan</p>	<p>加盟後 12 ヶ月以内に、移行計画、都市・地域計画、ないしは他のレース・トゥ・ゼロ要件の全てをどのように満たすかを示す</p>	<p>公正な移行を支援する</p>

	<p>同等のものを一般に公開する。そこには、今後 12 カ月の間、2-3 年の間、そして 2030 年までにどのような行動をとるのかを記載すること。</p>	<p>どのように、気候変動の影響と気候のための移行の両方の影響を受けるコミュニティを支援し、彼らが 2030 年までに世界全体の排出半減という目標達成に参加することを強化するかを説明してください。その際には、不公平に対処し、より公平な未来を構築することに努めてください。</p> <p>自然を統合する 生物多様性条約に基づき、生物多様性の保全と持続可能な利用を、関連する部門別または部門横断的な計画、プログラム、政策に統合してください。</p> <p>ステークホルダー（関係者）に力を与える 地域社会やその他のステークホルダーがそれぞれの目標を達成できるようにするために、どのような行動を取るかを説明してください。その際には、抜本的に協力する精神を大切にしてください。「持続可能な開発目標 (SDGs)」をどのように支援するかを含めてください。途上国が公正で包括的な移行を実現するために、途上国のレジリエンスを高め、途上国への資金供給を促進する方法を計画で明確にしてください。</p>
<p>進める Proceed</p>	<p>(ネット) ゼロ達成に向け、中間目標の達成に合う利用可能なあらゆる経路を通じ、直ちに行動を起こすこと。必要であれば、セクターごとのブレークスルーに貢献すること。</p>	<p>自らの領土/バリューチェーンを超えて貢献する 自らの排出を科学に基づくネットゼロ経路に従って削減し、残った排出については全て中和することに加えて、高品質の炭素クレジット(排出削減、削減貢献、または除去)を購入し償却するなどして、バリューチェーン/領土を超えた対策の努力によって、世界全体が(ネット)ゼロに向かうことに貢献してください。その際には、誓約を満たすために必要な排出削減を代替したり、遅延させてはいけません。</p> <p>高排出セクターを優先させる 常備林(standing forests)を保護し、最も高 GHG 排出の活動やセクターでの排出を回避・削減するために早急に行動を起こし、同時に長期的な取り組みも怠らないようにしてください。2030 年ブレークスルーのセクター別目標に整合させてください。</p> <p>気候解決策の大規模化 新技術、新しいビジネスモデル、政策的アプローチ、コミュニティの施策など、世界全体でのネットゼロの達成に貢献する活動を積極的に拡大させる。</p> <p>あなたのエコ・システム（生態系）に力を与える あなたの存在するエコ・システムの主体に対して、融資、能力開発、知識の共有、資源へのアクセスなどを通じて、レース・トゥ・ゼロ計画を実施するための力を与えましょう。金融機関は特に、新興市場や発展途上国における投資の規模を拡大しましょう。</p>
<p>公開 Publish</p>	<p>少なくとも年 1 回、中間目標および長期目標に対する進捗状況、および実施中の活動を公開した形で報告すること。標準化され</p>	<p>自らのバリューチェーンまたは領土の内外の進捗を報告しましょう バリューチェーン/領土内の排出削減の進捗とともに、バリューチェーン/領土外の投資や行動についても、進捗を概説しましょう。短期と長期の目標を達成するために、資源や能力をどのように配置したかを報告しましょう。</p>

	<p>たオープンなフォーマットで、UNFCCC Global Climate Action Portal に対応したプラットフォームを通じて報告すること。</p>	
<p>説得 Persuade</p>	<p>参加から 12 カ月以内に、業界団体の会員であることも含めて、対外的な方針やエンゲージメントを、2030 年までに排出を半減し、2050 年までに(ネット)ゼロに到達するというゴールと整合するようにすること。</p>	<p>野心の輪を活性化させましょう 同業他社、ステークホルダー、政府に対して、目標や行動を 1.5℃と整合させるように積極的に物申しましょう。自らの野心的目標の実践が機会をもたらすことを示し、模範となりましょう。</p> <p>(ネット) ゼロへの整合を主流に 1.5℃への整合がすべての関係者にとってのデフォルト (当たり前) となるよう、適切な規制と促進策を提唱してください。</p>